

Title	大阪大学低温センターだより No.110 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 110
Issue Date	2000-04
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/22141
DOI	
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

編集後記

最近の日本の情勢を反映して、社会的に大学の存在があらこちらで議論され、大学にいるものにとっても、改めてその意義を見直すことが、ますます必要になってきています。本号の都先生の巻頭言にあるように、今後ともますます大学を取り巻く環境は、変化していくことと思われます。が、だからこそ、時代に振り回されない、地に足をつけた研究をすることと、その研究の成果を分かりやすく紹介することがますます重要になることと思います。

コンピュータネットワーク技術の進歩によって、身の回りを毎日大量の情報が通りすぎていきます。このような大量の情報から確固とした情報を選び分けることを思うとため息をつきたくなります。このような情報の流れの中に足場を築くためには、「低温センターだより」のような、幅広い分野の丁寧で分かりやすい記事が、ますます重要になってくるのではないのでしょうか。「低温センターだより」自体も、研究紹介や研究ノートだけでなく、シリーズで紹介する低温実験の教育の試みなど、記事自体の幅も広げようとしています。低温というキーワードの下に、自然科学の面白さを伝えようという編集者の役割はますます重要になっていくでしょう。

個人的な話ですが、本号をもって編集委員から離れることになりました。早いもので、低温センターだよりの編集委員の一員に加えていただいてから3年が過ぎました。およそ大阪大学にいながら、横で何をしているかあまり知るすべを持たなかった怠け者にとって、低温センターだよりの編集会議で、取り上げられる内容の豊富さには目を奪われました。また、どうすれば、最新の科学の面白さを伝えられるかを真剣な議論する中に、参加できたことは大変楽しいことでもありました。この委員を離れることは個人的には大変残念です。が、有能とは程遠い編集委員でしたので、「低温センターだより」自体は、良くはなれど、悪くなることは間違っても無いでしょうから、今後は、熱心な読者として、この「低温センターだより」を応援させてもらおうと思っています。

最後に、編集委員の方にエールを送りたいと思います。

(藤井研一)

大阪大学低温センターだより 第110号

平成12年4月 発行

編集責任者 邑 瀬 和 生
発 行 者 大阪大学低温センター
吹田分室 大阪府吹田市山田丘2番1号
電話 (06) 6879-7985
豊中分室 大阪府豊中市待兼山町1番1号
電話 (06) 6850-6691

印 刷 所 阪東印刷紙器工業所
大阪市福島区玉川3丁目6番4号
電話 (06) 6443-0936 (代表)

目 次

No. 110

巻頭言

ミレニアムに際して 都 福仁 1

研究ノート

あるセレンディピティーについて 理学研究科 栗田 厚 3

超高速光シャッターを用いた時間分解蛍光スペクトル測定

..... ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 兼松 泰男 12

強い発光を示す多結晶Ga₂N薄膜の成長と評価

..... 産業科学研究所 朝日 一 17

平成10年度寒剤供給状況 22

平成11年度寒剤供給状況 24

お知らせ 27